

【様式】

令和7年度 学校マネジメントシート

学校名(三重県立稲葉特別支援学校)

1 目指す姿

(1)目指す学校の姿		<ul style="list-style-type: none"> ○児童生徒一人ひとりの能力や特性に応じた教育活動を推進し、可能性を伸ばし、社会参加と自立に必要な力を育成する。
(2)	育みたい資質・能力(育みたい生徒の姿)	<ul style="list-style-type: none"> ○自他の心身や命を大切にし、社会の一員として明るく豊かに生活するために必要な知識・技能・体力を身につける。 ○多様な経験や成功体験を通して自己肯定感を高め、何事にも挑戦しようとする気持ちを形成する。 ○自発的な活動や仲間と共に考え協力する姿を大切にし、地域の中で主体的に生きていく力を育む。
	ありたい教職員の姿	<ul style="list-style-type: none"> ○児童生徒への深い愛情と確かな人権感覚をもち、率先して取り組む活力ある教員。 ○専門性の向上と自己研鑽に努め、仲間と新しい教育実践に挑戦する教員。 ○組織の課題を発見し、新たな伝統・システム作りに取り組む創造性のある教員。

2 現状認識

(1)学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待		<p>〈児童生徒・保護者〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○安心・安全な学習環境をベースとした、保護者との連携・相談体制の充実 ○将来の社会参加に向けた生活指導・学習指導・キャリア教育 	
(2)連携する相手と連携するうえでの要望・期待	連携する相手からの要望・期待	連携する相手への要望・期待	
	<p>〈小中学校〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○特別支援学校のセンター的機能を充実 ○地域の学校との交流及び共同学習の継続した取り組み <p>〈地域〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○防災・安全対策について、地域及び近隣の施設や事業所とのさらなる連携 ○人権について、地域社会に向けた発信の強化 	<p>〈関係機関〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○特別な支援が必要な子どもたちへの支援体制の確立 ○交流及び共同学習や、卒業後を見据えた実習等の連携した取り組みの継続 <p>〈地域〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○障がいと障がい者への理解、本校の学校教育への協力や児童生徒が活躍できる場の提供 	
(3)前年度の学校関係者評価など		<ul style="list-style-type: none"> ○防災・安全対策はいのちにかかわる大切な事であり、指定避難場所までの避難経路や、災害備蓄品の数量について確認を行う等、細部まで考えてより一層充実した対策を講じた方がよい。また、地域及び近隣の施設や事業所との連携も強化していけるとよい。 ○人権について、本校の児童生徒は問題の当事者であり、校内にとどまるのではなく、地域社会に向けて啓発するような取り組みを考えていかなければならない。 ○児童生徒の人生が豊かになるような進路指導やアドバイスをしてもらいたい。 ○地域にとって特別支援学校のセンター的機能の役割は重要であり、地域の学校との交流及び共同学習も継続して取り組んでほしい。 	
(4)現状と課題	教育活動	<ul style="list-style-type: none"> ○児童生徒のよりの確かな実態把握に基づき、個々の教育的ニーズに応じた個別の指導計画を作成し、授業内容や支援方法の検討を行い、実践に生かす。 ○校外学習や実習等の社会体験の機会を増やす等、社会性を養うことにつながるような活動を取り入れ、実践的なスキルを習得する機会を提供する。 ○あいさつやグループ活動を通じたコミュニケーション力の向上、また、リトミックや朝の運動等を継続的に実施し、体力の向上を促進する。 ○自立活動における ICT の活用を進め、障がい特性の補完につながるよう 	

		な授業を考えていく。
	学校運営等	<p>○教員の研修を一層充実させ、障がいの多様化に対応できるような授業力と支援に必要な知識、ICT 機器活用のスキルを向上させる。</p> <p>○地域の防災や安全に関する機関と連携し、幅広い視点からいのちを守るための取り組みを推進する。</p> <p>○関係機関との連携を強化し、校内支援体制をより充実させる。</p> <p>○センター的機能の持つ役割を適切に果たすと共に、交流及び共同学習の充実を図り、特別支援教育及び人権教育の両側面から地域に根差した学校を目指す。</p> <p>○各学部や各分掌で業務内容を再評価し効率化を図る。また、役割分担を明確化し、環境を整え、学校全体の組織力を高める。</p>

3 中長期的な重点目標

教育活動	<p>1 自分や周りの人の心や体、命を大切にすることを学び、社会の一員として楽しく幸せに生活するために必要な知識や技能、体力を身につける。</p> <p>2 様々な経験や成功したと感じられる体験を通して、自分に自信を持つ力を育て、どんなことにも挑戦する気持ちを作り出す。</p> <p>3 自分から進んで行動することや、仲間と一緒に考えて協力することを大切に、地域の中で積極的に活躍できる力を育てる。</p>
学校運営等	<p>1 障がいの多様化、ICT 機器の活用を踏まえた教職員一人ひとりの専門性を向上させる。</p> <p>2 誰一人取り残さない教育の実現に向けたセンター的機能と安心・安全のための切れ目のない支援の充実に向けたネットワークを形成する。</p> <p>3 誰もが自信と誇りを持ち業務にあたることのできる「チーム稲葉」としての体制・組織づくりを進める。</p>

4 本年度の行動計画と評価

(1)教育活動

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
1 学習内容の充実	<p>○児童生徒についてより適切な実態把握を行うとともに、学習指導要領をもとに小・中・高の系統性を考えた各教科等の年間指導計画を作成し、個に応じた授業内容や支援方法を検討し実践する。</p> <p>(1) 児童生徒の実態把握と目標設定、教員間・保護者との共有、授業内容の検討と評価</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各学部、個別懇談会の実施 ・個別の指導計画を基にした、課題や目標、評価の確認 ・個別の教育支援計画の確認、見直し ・各教科の年間学習指導計画内容検討会 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育活動・支援に満足している保護者の割合 80%以上 <p>○日常の授業に加え、校外学習等の社会体験活動、児童生徒会活動や卒業後を見据えた各種実習等の経験を通して、挨拶や他者との関わりを学びながら社会性を身に付け、学びの般化につなげるとともに、自分の意志や気持ちを的確に伝える力を養うための学習活動を行う。</p>	(年度末および適宜記載)	◎
			◎

- (1) 校外学習、現場実習等の体験学習
【活動指標】
 ・校外学習 各学部2回以上
 〈高〉・現場実習 高等部2年生 各学期1回
 高等部3年生 1回以上
- (2) 全校集会等を通しての児童生徒会活動の充実
【活動指標】
 ・全校集会の取り組み 各学期1回
 ・運動会、学校祭での司会進行や挨拶
- (3) 食に関する指導、保健指導、健康相談
【活動指標】
 ・食に関する授業 各学部1回以上
 ・保健指導 各学部1回以上
 ・個に応じた健康相談
- (4) 高等部生徒の進路希望の実現
【活動指標】
 ・高等部2年生 進路説明会の実施
 ・高等部3年生 進路懇談会、移行支援会議の実施
- 【成果指標】**
 ・学校での学びで「達成感」を感じている児童生徒の割合 80%以上
 ・高等部生徒の進路希望の実現 100%

○体力向上につながる授業、ICTを活用した授業等により自立につながる力の向上を目指した取り組みを行う。

- (1) 体力向上に向けた活動
【活動指標】
 〈小〉・からだタイム（リトミック）
 〈中〉・朝の運動
 〈高〉・持久走
- 【成果指標】**
 ・「体を動かすことが楽しい」と回答する児童生徒の割合 70%以上
- (2) 授業等各活動でのICTの活用
【活動指標】
 〈小〉・ICT機器を活用した視覚支援
 〈中〉・ICT機器を活用できる機会を保障
 ・初歩的な操作の指導
 〈高〉・一人一台情報端末を使った授業の実践
- 【成果指標】**
 ・ICT機器を用いた授業を行った教員の割合 100%
- (3) 個に応じた自立活動の設定
【成果指標】
 ・校務支援システムを用いた自立活動の目標設定を行った児童生徒 100%

2 命を大切に する教育	<p>○児童生徒一人ひとりの個性を尊重し、安心・安全な教育環境を構築する。</p> <p>(1) 命を大切にし、いじめを許さない態度を養う学習 【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ピンクシャツデーの取り組み ・いじめアンケートの実施 ・いじめ早期発見のための気づきリストによる実態把握 ・生と性の学習の実施 <p>(2) 個別的な人権問題を解決するための学習 【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の不安感や困り感の把握 ・他者を思いやる取り組みの実施 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いじめ早期発見のための気づきリスト回収率 90%以上 ・「不安感や困り感を先生に相談できる」と回答する児童生徒 70%以上 		
3 交流及び 共同学習	<p>○地域の小学校・中学校・高等学校の児童生徒との交流を通して、経験を深め、社会性を養い、お互いを尊重し合う大切さを学ぶ機会を設定する。</p> <p>(1) 居住地校交流、学校間交流 【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各学部、学校間交流の取り組み ・居住地校交流希望者に対して、年間2回以上実施 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校間交流 各学部での実施率 100% 		◎
改善課題			
(年度末に記載)			

(2)学校運営等

学校運営等に関する項目は、教職員や施設等を対象としたものとするのが望ましい。

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
1 教員の専門性の向上	○障がいの多様化に対応できるような授業力や知識、ICT 機器活用スキルの向上を目指す。		

	<p>(1) 障がいの多様化、ICT 機器活用に向けた教育環境の整備 【活動指標】 ・一人一台情報端末やパソコン室の整備 ・ICT 活用に関する情報共有 年間5回以上</p> <p>(2) 専門性の向上を目指した多様な研修会 【活動指標】 ・進路研修会 ・公開講座 ・施設見学会 ・医療的ケア緊急時対応研修、訓練 ・てんかん発作時の対応研修、訓練</p> <p>(3) 人権感覚あふれる学校づくり 【活動指標】 ・卒業後を見据え自己肯定感を高めるための系統的な支援を目指す研修の実施</p> <p>【成果指標】 ・専門性の向上のための研修を受講した教員 90%</p>	(年度末および適宜記載)	
<p>2 安心・安全な学校づくりと、コンプライアンスの徹底</p>	<p>○命を大切にすることを学べるような活動や、新たな視点での防災・安全対策や避難訓練を実施し、より幅広い視点から命を守るための取り組みを行う。</p> <p>○教職員としてのコンプライアンス意識を高めるとともに、障がいのある児童生徒の人権を守るための新たな取り組みを考え実施する。</p> <p>(1) 避難訓練、不審者対応研修 【活動指標】 ・避難訓練 各学期1回 ・失踪時対応訓練 ・教員対象の不審者対応研修 ・スクールバス引き渡し訓練</p> <p>(2) 信頼される学校づくり 【活動指標】 ・コンプライアンス研修 ・人権感覚ブラッシュアップ研修 ・職場の環境づくり</p> <p>【成果指標】 ・学校の危機管理・防災対策への保護者満足度 70%以上 ・コンプライアンスに関する目標を達成した教職員 100% ・人権意識が向上した教職員 80%以上</p>		<p>◎</p> <p>※</p>
<p>3 センターの機能的機能の充実</p>	<p>○校内支援や地域支援体制を整え、誰一人取り残さない教育の実現に向け、小学校・中学校・高等学校への積極的な情報発信・提供を行い、センター的機能の充実を図る。</p> <p>(1) 保護者、地域の小学校・中学校・高等学校に向けての研修会 【活動指標】</p>		<p>◎</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者対象進路研修会 ・地域の小学校・中学校・高等学校対象公開講座 ・地域の小学校・中学校・高等学校対象施設見学会 <p>(2) 校内の支援体制および福祉との連携の充実</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・支援会議 ・関係者会議 ・地域連携会議 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・欠席日数 30 日以上の児童生徒に関する支援会議開催率 100% 		
4 働きやすい職場づくり	<p>○働き方改革につながるよう、各部・各分掌で業務内容や体制を見直し、教職員一人ひとりが持てる力を発揮しやすい環境をつくり、チーム稲葉の組織力を高める。</p> <p>○ICT の有効活用と業務の思い切った見直しを進めることにより、学校の働き方改革を推進する。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・設定した日の定時に退校できた教職員の割合 90%以上 ・計画した日に休養日を設定できた部活動の割合 100% ・放課後に開催し 60 分以内に終了した会議の割合 80%以上 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一人当たりの月平均時間外労働時間 10 時間以下 ・時間外労働が月 45 時間を超える延べ人数 0 人 ・時間外労働が年 360 時間を超える人数 0 人 ・一人当たりの年間休暇取得日数 4 月～12 月 10 日以上 		※
改善課題			
(年度末に記載)			

5 学校関係者評価

明らかになった改善課題と次への取組方向	(年度末に記載)
---------------------	----------

6 次年度に向けた改善策

教育活動についての改善策	(年度末に記載)
--------------	----------

学校運営について
の改善策

(年度末に記載)